

第3回 多摩市市制施行50周年記念誌編集委員会 要点記録

- 1 日時：平成30年10月12日（金）午前10時から正午
- 2 場所：多摩市役所3階 特別会議室
- 3 出席委員： 浜田委員長、保坂副委員長、長倉委員、三輪委員、川村委員、松井委員
- 4 議題：市制施行50周年記念誌の構成について

1 開会

委員長 第3回目の多摩市市制施行50周年記念誌編集委員会を開催する。

2 議題

委員長 本日の配布資料について、事務局より確認及び資料の説明をお願いしたい。

事務局より、配布資料の確認及び資料2に基づき説明を行った。

それでは、その他の資料の内容について、多摩市文化振興財団より説明をお願いしたい。

財 団

資料1及び参考資料1、2、3に基づき、財団より説明を行った。

構成案については、前回の委員会でご指摘いただいた形で内容を一部修正している。また、項目の候補となるテーマをより具体的に記載し、その項目毎に執筆候補者を加えている。なお、「IV章《2》多摩ニュータウン開発～市制施行以降⑥入居者たちの文化」のうち、「スポーツ」及び「コミュニティセンターの活動」の項目については、市民が中心となって活動が行われてきたものであるもので、執筆者を市民公募で募る形で良いのではないかと検討している。加えて、各項目に関連する写真について、サムネイルにまとめているので、併せて確認いただきたい。

レイアウト案について、縦書きや横書き、文字のポイントやフォント等が違うものを複数案示しているもので、こちらもご確認いただきたい。

委員長

本日は、記念誌の構成を中心に議論を行いたい。

まず始めに、今回の資料内容について、ご質問やご意見等はあるか。

委 員

「V章③これからの取り組み～未来の多摩市へ～」に記載する内容について、刊行時の状況によって書き方は変わってくると思うが、どのような予定であるか。

事務局

刊行時には、まだ各事業が全て完了している段階ではない予定である。

委員長

章の名称が「多摩市の現在から未来へ」となっているので、刊行時の状況に合う形で対応できるよう配慮しておけば良いと思う。

委 員

執筆者へ依頼するにあたっては、おおよそのレイアウトや文字数等が決まった上で依頼することになると思うが、依頼から原稿提出までのスケジュールを表に落とし込んで明確にしておく必要がある。

委員長

スケジュールについては、一般的に執筆依頼から原稿提出まで1年から1年半くらいの期間を設けることが多い。今回の記念誌作成にあたっても同様のスケジュールになるのではないか。

また、写真の公募をしていたが、前回委員会以降に新たな写真の提供はあるか。

事務局

新たな写真の提供はなかった。

- 副委員長 構成案の「IV章《2》多摩市ニュータウン開発～市制施行以降②多摩ニュータウン中興期の変化」について、多摩市では、中興期という表現は使われているのか。
- また、「IV章《2》多摩ニュータウン開発～市制施行以降④多摩ニュータウンの特色」については、多摩ニュータウンのランドマークにあたるようなものを記載していく内容とするのか。
- 加えて、「IV章《1》多摩ニュータウン開発～市制施行前③生活再建と初期入所」においてニュータウン地域の人々の暮らしぶりについて記載していくご説明があったが、ニュータウン入居前やその他の地域の暮らしぶりについては、「III章（5）現代④人々の暮らし」の部分において記載することで、対比的に表現できるようにしていければ良いと思う。
- 財 団 中興期という表現については、ふさわしい表現について検討する。また、多摩ニュータウンの特色についても項目の名称や内容を再度検討する。
- 委 員 執筆者へ執筆依頼を行い、原稿が提出されるまでの期間において、本委員会ではどのようなことを議論していくのか。
- 財 団 原稿提出のタイミングが章の年代や執筆者によって違うので、原稿が提出され次第、個別に内容を確認することは可能である。
- また、資料編については事務局を中心に作成を進めていくので、この点について本委員会で議論をしていただく予定である。
- 委 員 執筆者へ依頼するまでの流れについて確認になるが、執筆を依頼する前に使う写真やレイアウトを決定した上で執筆者へ依頼するのか、または、写真の候補を執筆者へ提示した上で、執筆者が使う写真を選び、原稿を作成し、分量に応じてレイアウトの調整を図っていくのか、どのような流れになるのか。
- 副委員長 各章によって資料となる写真の性質等が違い、書ける文章の分量も異なると思われるので、全ページが同一のレイアウトにはならないと思う。そのため章によっては執筆者への依頼の仕方を変える必要があるのではないかと思う。
- 委 員 長 これまでの経験では、写真の候補を数十点提示し、その中から説明に合いそうな写真を執筆者が選び、解説を行うと同時に、強調したい写真は大きく掲載する等により、レイアウトを検討していく形が一般的であったので、今回もそのような形が良いのではないかと思う。
- 続けて構成案についてご議論いただきたいと思うが、ご意見はあるか。
- 委 員 昔から住んでいた住民と多摩ニュータウン開発に伴う新たな住民との文化の融合に関する記載はどの章で記載されていくのか。
- 財 団 「IV章《2》多摩ニュータウン開発～市制施行以降⑥入居者たちの文化」に記載のある「祭りと盆踊り」等に記載する予定である。
- 副委員長 今のご説明を踏まえると、新たな入居者のみの記載ではなく昔からの住民に関する記載も含まれると思うので、項目の名称を「入居者たちの文化」から変える必要があると思われる。
- 委 員 多摩ニュータウン開発が進み、新たに生まれた文化もあると同時に、旧来からの文化がニュータウン開発を経て変化したものもあると思う。その変化等を記載していければ文化の融合が捉えられるのではないか。

- 委員長 「IV章《2》多摩ニュータウン開発～市制施行以降⑤多摩ニュータウン開発と伝統文化」において、旧来からの文化について記載がなされ、「IV章《2》多摩ニュータウン開発～市制施行以降⑥入居者たちの文化」において、新たな文化が記載されることを想定していたと思う。これらについて、項目名を整理していければ対比が出来、良いのではないかと思う。
- また、IV章における多摩ニュータウン開発に関する項目について、全体的にハード面の記載が多い印象があるので、人々の暮らしぶり等日常生活がわかる項目があるとより良いではないかと思う。
- 委員 「IV章《2》多摩ニュータウン開発～市制施行以降③多摩ニュータウンの構成」について、多摩ニュータウン開発の計画を作成するにあたっては、人々の生活を想定して計画が作られているはずであるので、この項目の名称を検討した上で、この中に暮らしぶりわかるような記載があれば良いのではないか。
- 委員 多摩ニュータウン開発が進み、入居が始まってから大きく生活が変わっているので、その点についても記載があった方が良くと思う。
- 委員 IV章《1》に「③生活再建と初期入居」とあるが、どのようなところが再建にあたるのか。
- 財 団 新住宅市街地開発法による土地収用などがあつた中で、農業をやめざるを得なかつた人たちなどに対して使用していた用語であつたため、このようなタイトルとなっている。
- 委員長 執筆者より、項目の名称を変更したいと申し出があつた場合には、どのように対応していくのか。実際に執筆が進んでいった場合に、項目の名称が執筆内容に沿わない場合も出てくることも想定されるが、その都度委員会において確認していく形で良いか。
- 財 団 そのような対応で良く思う。
- 委員 サンリオピューロランドやベネッセ等、産業・観光面についても、現在から未来への重要なトピックであるので、どこかに記載を入れて欲しい。
- 委員 この記念誌をより多くの人に興味を持って読んでもらうためにも、人々の暮らしぶりの記載はより充実させた方が良く思う。
- 委員長 これまでの経験では、暮らしぶりの写真として、子どものままごとをやっている様子やおもちゃで遊んでいる写真や食卓の写真などがあると、当時の生活の様子がよくわかり非常にインパクトがあるのではないかと思う。
- 副委員長 学校給食の写真等があると、時代によって変化がみられるのでおもしろいと思う。
- 財 団 冒頭でお話しした、入居者たちの文化の部分について、市民公募で文案をもらうことはどうか。
- 副委員長 市民公募のアイデアは良いアイデアだと思う。手続的には問題ないか。
- 事務局 問題ない。
- 委員長 それでは、続けてレイアウトについて議論したいと思うが、ご意見はあるか。レイアウトについては、まず縦書きか横書きか、といったところがあるが、今回

の記念誌については、多摩ニュータウン開発以降の記載が中心となってくるので、時代的にも横書きが良いかと思う。

副委員長

やはり現代の部分が多いので、横書きが良いのではないかと思います。

また、字のポイントについて、小さいと読みづらいので、分量は減ってしまうが、最低でも10ポイントはあった方が良くはないか。

委員長

市民向けの記念誌で幅広い人が読むものなので、10ポイントや10.5ポイントくらいのサイズがあると良いと思う。また見開きページの分量は、これまでの経験を踏まえると多くても400～500字くらいが良いと思う。また、キャプションでの写真の解説についても、30～40字くらいが妥当ではないか。

副委員長

キャプションでの写真の解説については、写真によって本文に説明が入る場合等があるので、必ずしも解説が入るというわけではないと思う。

委員長

また、この冊子はフルカラーになるので、白黒写真の部分については、カラー写真のページとの見栄えの差が大きく生まれてしまうので、デザインを工夫する等が必要であると思う。

委員

航空写真については、写真が掲載されるのみであるか。写真に地図情報が入るとよりわかりやすいと思う。

財団

地図情報を落とし込むなど掲載方法は検討したい。

委員長

例えば記念誌に掲載された資料の位置情報が入った地図を、付図など記念誌の冊子から独立して使えるようにすれば、より実用的になる。また、ニュータウン開発の記録として撮られた航空写真が多数存在するので、活用できると良いと思う。

最後に他に確認したい事項等はあるか。

副委員長

執筆候補者に執筆依頼を断られた場合、再度執筆候補者を検討することは時間を要するので、執筆が可能かどうか今年度内の早い段階で確認を取っておいて良いのではないか。

財団

今回の委員会までに、執筆を依頼した場合にお受けいただけるかどうか執筆候補者を再精査した上で確認しておくこととする。

委員長

それでは、本日の委員会において、構成は暮らしぶりを中心とした記述を加えることや、レイアウトは横書きで文字サイズを10ポイントにすること、章ごとに執筆要綱を作り分ける等のご意見が出たので、これらの意見等を踏まえ修正されたものについて、次回の委員会で確認することとしたい。

3 その他

事務局

次回、第4回多摩市市制施行50周年記念誌編集委員会については、平成31年1月に開催したい。日程については、後日連絡する。

4 閉会